寅さん歩　その 18
東京の学食めぐり-30

平野　武宏

「寅さん歩」の愛読者の要望で始めた「東京都にある大学の学食めぐり」です。最近は一般の人も食べられる学食が増えています。
このテーマは訪れるだけでなく、実際に食べて・コメントが必要です。
取材やコメントでは関係者にご迷惑をかけないよう配慮します。
メニューの選択やコメントはあくまでも「寅次郎の好み・独断」としてお読みください。構内の写真撮影は建物外観のみで人物が写り込まないことが原則です。
今回はオープンキャンパスを利用した 2 度目の女子大学食めぐりです。学食のメニューや値段は訪問時のものです。右上写真はパンダの食事風景です。食べ過ぎて、こんなに太らないよう注意です。
最寄り駅は代表例です。

［日本女子大学　目白キャンパス］　文京区目白台 2-8-1

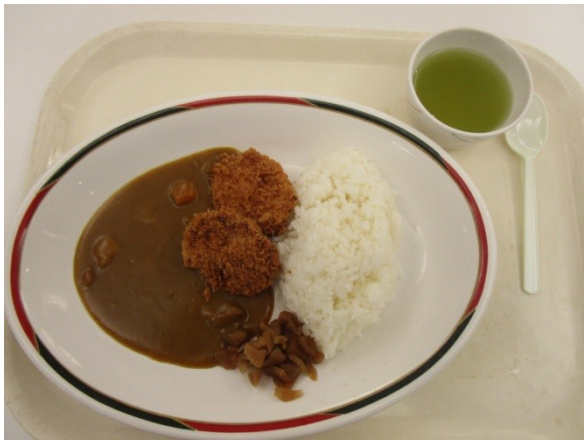
最寄駅　ＪＲ　目白駅からバス利用

女性に教育は有害無益と考えられていた時代、**日本初の組織的女子高等教育機関**として**明治 34 年（1901 年）成瀬仁蔵**が**日本女子大学校**、日本女子大学校附属高等女学校を創立。明治 38 年（1905 年）財団法人日本女子大学として設立されました。ＮＨＫ朝ドラ「あさがきた」のモデルになった**広岡浅子**は実家の三井財閥の支援や大隈重信、伊藤博文、渋沢栄一、岩崎彌之助などを巻き込み、創立に尽力しています。**建学の精神**は１．女子を人として教育する。２．女子を婦人として教育する。３．女子を国民として教育する。人格教育を基本とした日本での女子高等教育のモデル校と言われています。
現在は家政学部、人間社会学部、文学部、理学部を擁しています。2021 年には生田キャンパスの人間社会学部を目白に移転し、生田キャンパスは廃止の予定とのこと。オープンキャンパスの日に訪問しました。目白駅から無料バスが用意されていました。入学を希望して、友達同士で参加・お母さんと参加・お父さんも一緒に家族で参加と様々でした。皆さんの合格を祈る寅次郎です。

正門を入ると左側に創立者の成瀬記念館（写真下左）とその奥には成瀬記念館分館（旧成瀬仁蔵住宅　写真下右）があります。成瀬記念館は火曜日～土曜日（祝日を除く、10 時～16 時 30 分、土曜日は正午まで）誰でも見学できます。分館は予約制とのことで、本日は特別公開。

正門を入って、右側には百年館高層棟（写真下左）、脇には低層棟があります。写真下右は学食のある七十年館です。

オープンキャンパス用メニューでラーメン 360 円、丼 470 円
鶏おろしうどん 410 円、
カレー300 円～400 円、
各種ケーキ 100 円、杏仁 100 円



比較的行列の短い、かわいいヒレカツがのったヒレカツカレー400 円を注文しました。寅次郎、「かわいいヒレカツ」と呟くと、後ろに並んでいた女性から「女子大ですから」の一言がありました。

［津田塾大学　小平キャンパス］ 小平市津田町 2-1-1

最寄駅　西武国分寺線　鷹の台駅

明治 4 年（1871 年）欧米視察の岩倉具視一行がアメリカへ旅立った船に満 6 歳の少女の姿がありました。北海道開拓使が募集した女子官費留学生第 1 号で、最年少の少女が**津田梅子**です。お父さんが北海道開拓使に勤務、アメリカへの女子留学計画を知り、娘を応募させたとのこと。アメリカでの教育を受け、生活文化を経験して明治 15 年（1882 年）に帰国。明治 19 年（1886 年）伊藤博文の推薦で華族女学校教授、明治 26 年（1893 年）ブリンマー大学へ再度留学（3 年間）、**明治 33 年（1900 年）**先駆的な私立の女子高等教育機関の一つである**「女子英学塾」**を麹町区（現千代田区）に開校。
津田梅子は開校式で『**専門知識を身につけることの大切さとともに幅広い視野を持ち、自立して社会に貢献する「オールラウンドな女性を育成する」**と話しました。これが**建学の精神**です』。関東大震災で校舎が全焼、昭和 6 年（1931 年）現在地に移転、昭和 8 年（1933 年）「津田英学塾」と改称、昭和 18 年（1943 年）「津田塾専門学校」と改称、昭和 23 年（1948 年）「津田塾大学」設立　英文学部を置く。現在は小平キャンパスで学芸学部（英語英文学科、国際関係学科、数学科、情報科学科）が学び、平成 20 年（2008 年）渋谷区千駄ヶ谷に新設の千駄ヶ谷キャンパスでは総合政策学部（総合政策学科）が学びます。
2019 年には学芸学部に多文化・国際協力学科が新設されるとのこと。
自分は「男性と共に力を合わせられる存在」、更に「対等に力を発揮できる存在」と気づかせようとした津田梅子の思いは「新しい女性たち」を多く輩出しました。
更に **2030 年に向け**、次の**津田ビジョン**（原文）を掲げています。

変革を担う、女性であること
弱さを、気づきに。強さを、分かち合う力に。
不安を、勇気に。逆境を、創造を灯す光に。

鷹の台駅には写真付きの案内図を配る女子大生がお出迎え。中央公園から玉川上水脇に出て、府中街道に出ると正門です。真正面には本館（ハーツホン・ホール）（写真下左）で昭和 6 年（1931 年）竣工。津田梅子の生涯の友であり、校舎建設に尽力したアナ・ハーツホンに因んでいます。写真下右は本館裏側で芝生と建物がマッチしていました。建物は東京都選定歴史的建造物に指定されているとのこと。

本館に向かって左脇は学食がある建物（写真下左）です。メニューはオープンキャンパスメニューでした。メインはカレーライス、ハヤシライス、スパゲッテイミートソース、炒飯。蕎麦、うどん、ラーメンでした。

写真上は寅次郎ランチ 390 円
（炒飯 270 円、フルーツポンチ 120 円）

写真左は同行 K さんのランチ 520 円
（ハヤシライス 300 円、サラダ 100 円
　フルーツポンチ 120 円）

構内建物で、写真下左は本館裏の建物、写真下右は本館表の左側です。

津田梅子は小平キャンパスの完成を待たずに昭和 4 年(1929 年) 享年 64 歳で永眠しています。
第 2 代塾長(初代学長)は**星野あい**でその名を冠した星野あい記念図書館があり、その 2 階に津田梅子資料室があるとのことですが、見ることが出来ませんでした。
また、津田梅子の遺志を受け、塾当局は東京府と折衝した結果、特別に校地内に墓所の設置が認可され、校地奥のグランドの先に墓所があります。
津田梅子は生涯独身を貫き、「梅子先生のお墓にお参りをすると結婚出来なくなる」という都市伝説があるそうです(出典：東大史料編纂所教授　本郷和人の新聞記事「明治の女子教育」)

[お詫び]

前章(学食めぐり-29)の「明星大学」の紹介で、大学概要の説明が不足しておりました。大変失礼いたしました。この場で補足させていただきます。

明星大学は**大正 12 年(1923 年)**当時の成蹊学園事務局長であった**児玉九十**によって創立された**明星実務学校**を源にします。**昭和 39 年(1964 年)**に**明星大学**を当時は無人の多摩丘陵に理工学部 1 部 5 学科で**開学**。**建学の精神**は「和の精神のもと世界に貢献する人を育成する」です。現在は理工学部、人文学部、経済学部、経営学部、情報学部、デザイン学部、心理学部、教育学部の 8 部を擁する総合大学です。
「明星」の校名の由来は中国最古の詩編「詩経」にある“明星煌々”(めいせい　こうこう)にもよるとのこと。広告のキャッチフレーズは「教育の明星大学」。
名前や規模ではなく、選ばれているとのこと。

次回は　*東京の学食めぐり-31*　です。

平野　寅次郎　拝